

2025(令和7)年8月8日(金)～10日(日)

サマーフォーラムinきょうと

2025年9月発行

第58回全国手話通訳問題研究集会

～平和と人権はいのち 仲間と共に京都から～

第15号

速報

KYOTO TERRSA 京都テルサ

〒601-8047

京都府京都市南区東九条下殿田町70



<事務局>「第58回全通研～サマーフォーラムinきょうと～」実行委員会
〒610-0121 城陽市寺田林ノ口11番64
京都府聴覚言語障害センター気付
E-mail summerkyoto2025@kyoto-chogen.or.jp

【参加者の感想】

記念講演

マンガを読む時、そこには「なにげなく」
裏打ちされた概念があることを知った。改めて、
家にあるマンガを読み返そうと思った。
(匿名 福島)

とてもわかりやすく、考えさせられるものだった。
マンガの持つ可能性について、今後関心を持っていきたいと思った。とてもよかった。
(MTさん 神奈川)

親がろう者で活動家であったため、家を空けることが多く、3歳から留守番していた。
その時、絵本『日本昔話』の絵をみて物語を形づくり、想像していた。マンガも視認性が強いので、すぐに馴染めるものであり、親近性は強かった。(匿名 兵庫)

マンガで日本語を学んだろう者は多い。視認性の高いマンガを見ることで、頭の中で空間や想像力を高めることはきこえる、きこえない人に限らず、良い効果があると思った。(中島さん 岡山)

ステレオタイプは認識の問題。偏見は感情の問題。私が生きていく成長過程で植え付けられているが、意識をすることで変えることができる。私も常に意識できたらいいなと思った。(サッチンさん 福岡)

マンガが好きで、ただただ好きなマンガを読んできた。理論的な説明をいただき、マンガから学んできたことや、思い当たる節がいくつかあった。納得と感謝の念が湧き、これから愛読していきたい(日置さん 鹿児島)

A 講座 (北コース)

いこいの村でお暮しの皆さんの日々の生活、職員の方々と仲の良い様子、信頼されている姿を見て、皆さんの努力を感じた。お暮しの方々が「ケンカするけど手話で話せてうれしい」と話され、それに対して参加者の「広めないといけないね。がんばりたい」とのつぶやきもすばらかった。

(あゆけろりんさん 愛知)

栗の木寮の皆さんが自分の役割を自信を持ってお話しする姿はとても頼もしく、遠慮のないやりとりから仲良く暮らしている様子が伺えた。職員の皆さんの明るい笑顔と声かけが、入所者の穏やかな表情につながっていると感じた。(H.Sさん 静岡)

いこいの村で暮らす皆さん、働く皆さんが共にいきいきとしている様子が伝わってきた。きこえない方が高齢になっても手話を使って安心して過ごせる環境があるということがいかに大切かを学んだ。(山城さん 東京)

入所施設がすべて個室だということが素晴らしい。TVがあるリビングに集まっているろう者が穏やかで、手話で話している様子が良いなと思った。重複障害の方も各々役割を持ち活動されていること、スタッフの方がやさしくフォローされている姿にも感謝した。(H.Yさん 石川)

栗の木寮では、皆さん笑顔がすてきだった。一人ひとり役割を持ち、積極的に活動されていた。お互いを「仲間」と言っていたのが印象的だった。(ちやこさん 岡山)

いこいの村を初訪問。バス内のDVDで施設の歴史や創立に向けた運動等を知ることができた。見学の際には、入所の方々からのお話もあり、手話でコミュニケーションできる施設の必要性、大切さも改めて実感した。(中村ゆかりさん 東京)

A 講座 (南コース)

手話メイトさん同伴で手話を学びながら散策できたことは大変貴重だった。「緑」「嵐山」「渡月橋」と京都の手話、各地の手話と歴史を学ぶことができた。手話メイトさんに感謝。(しょこたんママさん 静岡)

日本全国からの方から、地域の話を知ったり、災害時の時の話などとても貴重な交流ができました。(S.Nさん 東京)

盲ろう料理人の林和男氏の講演が印象に残った。貴重なお話を聞けて、お話しもできて嬉しかった。いつかロコモコ食べてみたい。いろんな都道府県の方と交流できて仕事場では体験できないことをさせていただいた。(藤井麻梨江さん 埼玉)

実行委員さん、手話メイトさん、研修センターの小出さん、聾学校の先生と、講座を作り上げている皆さんのおもてなしの心と参加者の皆さんが共に楽しみ学ぶ姿勢、きこえる人、きこえない人が共に講座を盛り上げていたことが特に印象深く、感じるものあり。(サマフォ初心者さん 静岡)

B 講座

手話施策推進法が「真の共生社会」を作るための大事な一歩との言葉が印象的で、きこえるに関係なく、すべての人が手話という言語を習得し、手話で学ぶ機会を増やしていくために、自分ができることは積極的に進めたいと思った。
(わたなべさん 福岡)





B 講座 (つづき)

全通研の50周年のあゆみ、そして手話施策推進法ができた今、今後、さまざまな人とコミュニケーションをとり、運動していく意味がよく分かった。

(濱村由希子さん 愛知)

石橋理事長の手話施策推進法のポイントが印象に残った。規定が設けられていて、見直しは5年後に1回で、見直しまでが勝負!!とのこと。自分にできることを考えて取り組みたい。(あひるさん 滋賀)

初参加。大変勉強になった。ろうあ協会だけでなく全通研の世界も知って、より知識を深めてろうあ運動を通して人々に伝えられたらと思う。(富浦真一さん 静岡)

C 講座

重野阿久里さんの講演で、外国語通訳と手話通訳の共通点の多さに驚いた。改めてきこえる者とろう者の間には「言葉の壁」があるのだと思った。その言葉の壁が低くできれば、その他の困りごとも多くは解消できそうな気がする。(H.Nさん 大阪)

優生保護法について、生めなかった人だけが被害者と思っていたが、生まれた赤ちゃんが病気で亡くなったことも社会の問題だ、ということも含むことを知り、考え方が変

わった。今後ろう者と関わる時に気をつけようと思った。(副島泉美さん 福岡)

講義Ⅳで、講師の森さんが、被害者の証言を読まれるたびに、胸が痛くなった。手術の具体例を聞き、私まで下腹が痛くなり、気持ちを考えると、涙をこらえるのに必死だった。差別に関する講演を受けて、人権を考え直す必要があると実感。(Yさん 福岡)

D 講座

自分がどこでどんな風に暮らしたら…と考えた時、やっぱり地域と関わることは大切だなと思いました。(IKAさん 大阪)

講師のお話が分かりやすい。京都の皆さんお疲れさま。お互い楽しみましょう！(KOKAさん 奈良)

その他いろいろ

最近のサマーフォーラムは、ゆる〜く参加して楽しむことにしている。無理なく続けられることが大切。地域で活躍している方々のお話が楽しみ。(太田裕之さん 香川)

初参加。質疑応答や各県の取り組みの共有などが活発で手話活動をこれからしていく上でとても勉強になることばかり。(匿名 山口)

初参加。あつい仲間がたくさんいるなあーと思った。参加するといろんな情報が得られる。また参加した事のない会員も参加したいという気持ちをもってくれるように、支部での情報発信や自分も会員であるという自覚をもって一緒に活動できるようにしたいと思った。(Sさん 地域不明)

初参加。他県の取り組みや課題など発表を通して知ることができた。共感できる事や地元でできる事を改めて考える良いきっかけになった。(iさん 地域不明)

若者たちの活気がすごい!!いろいろな支部のいろんな方々の話をきいて、全通研の未来は明るいな…と感じた。(りんごちゃんさん 青森)

普段、地元の手話通訳者としかお会いしていないので、全国にこれほどの多くの仲間がいるのだと思うと心強い。また次回も参加する。(H.Nさん 大阪)

いまだに1万人弱の会員数はすごいこと。なのでフォーラムを通して希望が見えると良いなと思った。(上田謙太郎さん 愛知)

N-Action のつどいがあることで他支部や他県の青年部の方と意見交流でき、顔

みしりも作れるので次回も期待しています。(まめたさん 山梨)



2025(令和7)年8月8日(金)～10日(日)

サマーフォーラムinきょうと

2025年9月発行

第58回全国手話通訳問題研究集会

～平和と人権はいのち 仲間と共に京都から～

第16号

速報

KYOTO TERRSA 京都テルサ

〒601-8047

京都府京都市南区東九条下殿田町70



＜事務局＞「第58回全通研～サマーフォーラムinきょうと～」実行委員会
〒610-0121 城陽市寺田林ノ口11番64
京都府聴覚言語障害センター気付
E-mail summerkyoto2025@kyoto-chogen.or.jp

第1分科会

福井支部の情報発信についての発表がなるほどと思った。“YouTube で学んだ”という方がいてさまざまな情報があふれている中で団体名でしっかりとした内容、目的に合ったツールが必要と感じた。(まめたさん 山梨)

初参加。通研の会報やN-Actionに関する組織作りについて情熱を持って語る発表者の様子が印象的。「負担」「発信」「若者世代の参加不足」というキーワードが目立った。(上田謙太郎さん 愛知)

イベントの際、「子ども同伴 OK」など子育て世代の方も安心して参加できる言葉を記載すると良い…本当だなあと思った。「アーカイブ発信」の話もあり、誰もが参加しやすく、会員である事を感じ、新しい会員、仲間が増えたらいいな。

(Sさん 地域不明)

「手話を用いた映画・ドラマ・映像作品の事例」の発表に興味を持った。大学生が全て自分達の手で作り上げていて、しかも、その作品にろう者にとつての社会課題を盛り込み、当事者自身が作品に出演している「参加型アート」というものを初めて見て、心に響いた。(りんごちゃんさん 青森)

若い熱心な方が多く(しかも男性)、♡全通研の今後に希望が持てた！♡ 参加してよかった。子育て中の方がいつでも情報を得たりできるアーカイブをといわれていたのでは是非検討してほしい。

(Suzuranさん 長崎)

第2分科会

コーディネータのあり方について学んだ。人をマッチングするだけでなく、多角的視点で、関われる人材になるべきであるけれど、そのような人をどこが育てるのかと疑問がわいた。(あびこさん 千葉)

「手話通訳用ユニフォーム」に関するレポートで、実際のユニフォームを見て新鮮に感じた。明るい雰囲気、とても良かった。広まるといいね。(浦田さん 東京)

手話通訳者1人だけで問題意識を持てても、社会へ理解を広めるには難しく、通研で仲間と一緒に考えて行動していくことが大切であると思った。また、通研だけではなくろう協とのつながりも大切であるし、みんなで団結していくことで大きな力となることが分かった。司会の方の進行が素晴らしかった。(太田さん 埼玉)

レポート発表のどれもこれも、そうだね、とうなづくことしきり。毎年、第2分科会に参加。「手話通訳者の仕事」って本当に奥深さを感じている。(匿名 滋賀)

きこえない人の生活の向上のために必要なことを考えて、個人・限られた地域だけでなく団体として社会を動かす。もっと当事者の意見が聞きたい。参加の中にきこえない方もいらしたので、きこえる人の視点、きこえない人の視点で意見を交わしたい。

(ゆきさん 兵庫)

通訳のコーディネートを手話通訳していない人が担当していたり、登録通訳者の研修は年26回!?通訳にロイヤルブルーのユニフォームがある!?通研が、頸肩腕の面談してるなど、全国いろいろビックリする内容があった。(三郎さん 地域不明)

熊本の手話通訳者の服、伝統(黒)を破るという考え方がすごいと感じた。マンガリテラシーも同様に固定(観念)はよくないというのおもしろい。(K・Tさん 愛知)

内容が盛りだくさん。コーディネート業務についての役割、専門性について、また、けいわん検診の取り組みの話が良かった。レポート発表がすばらしかった。(K.Tさん 大阪)

静通研のけいわん検診の報告で、県内の専任登録通訳は全員通研会員でサークルに入会している。先輩達の動きが継承されていると思った。スバラシイ!!分科会のテーマにそったレポート、深める、積み重ねのレポートが要と思う。レポートがまちまちで地域参加者の状況がまちまちで言いっぱなしになっている。(サクラさん 福岡)

初参加。手話通訳を育てる時の課題を考えた。通訳の社会的地位の確立が問題だと思います。(匿名 大阪)

東京支部発表は、きちんと事業の分析がされていた。今後、いろんな場面で利用できたらいいなあ。(くずりゅうさん 福井)

第3分科会

手話施策推進法が制定された今がチャンス!との話に、まずは地域生活支援事業の現状を把握し共有し、運動を強化できればと思った。(T.Tさん 青森)

山口県立大学では「若年層の手話通訳」講座を2020年に始め、受講した大学生が、その年の統一試験に合格したと聞いて驚いた。(匿名 愛知)





利用者さんと一緒にレポート報告。しっかりと報告していた利用者さんを見て、コミュニケーションがどれだけ生きていくうえで大切なのかと見せてもらった時間だった。20年ぶりに参加。やっぱりたくさんの仲間と会う、話す、楽しい!! 明日からの活力になることを再確認した。(かえこさん 京都)

京都全地域で支援センター等が設立されていることが活動の結果となりすごいと思った。新しいいろいろな地域の情報が知れた。(レッドさん 山口)

地域生活支援事業のこと知らない人(ろう者関係なく)が多いので、まずは、みんなで知る(学習)ことが大切。若年層の通訳者を育てても出口がない。正規職員の雇用がなく教える方も説得力がない。手話を通して全通研と連盟の両輪で運動する事がとても大切。(吉田さん 岡山)

共同研究者の吉野さんが「地域生活支援事業の地域格差をなくそう」とまとめてもらって、整理されてすばらしいと思ったが、ふだん会うろう者とのギャップを感じた。同じ方向を皆が見なければならぬ訳ではないが、運動していくうえでは、同じ方向を見てほしい。もっとろう者に現状を知ってほしいと思っている。(藤村さん 長崎)

若年層の手話通訳養成が地域生活支援促進事業に移行するので大きなチャンス。いろいろな地域の事情があるが、アンケートを実施して回収すると情報公開が確実でいいと思う。(匿名 大阪)

きこえる人ならあたり前に情報が入り、必要な人やサービスにつながれることが、きこえない人は届かない。情報すら知らないこと、まだまだたくさんあると思った。特に医療・健康に関することは命や人生に関わる。分科会でさまざまな取り組みをきいてヒントをもらいたいと思う。(かまたさん 長野)

兵庫や札幌のような拠点のある取り組みは、運営など大変かと思うが、きこえない人にとって心強い居場所であることは間違いないと思う。(トトロのとなり♡さん 滋賀)

医療班の活動や新たな課題がとても新鮮で、防災担当者として組織のつながり方や方法を考えるきっかけをいただいた。組織も「地域」「ブロック」「全国」と単位ごとに最良の方法が異なると思うので今後、各単位で学習を深めて共有できたら円滑に活動できると感じた。(松尾巧司さん 大分)

第5分科会

どの県も同じような悩みがあることを感じた。他県はけっこうシビアに学習しているんだなと思った。学習中ではあるが講師、アシスタントの身になって参考になる内容を学習できればと思う。(小林正季さん 長野)

奈良の情報提供施設職員が通訳養成講座の運営を工夫していて良かった。来年のレポート依頼があり、期待している。手話施策推進法の中の手話の普及についてもっと市民レベル、あちこちで目にして学べる場を作る方法を学びたい。(E.Yさん 長野)

新潟の「なるほど講座」で統一合格者10名(平均)にはなるほど~と思った。(阿萬暖々果さん 宮崎)

手話通訳者の養成は、どの地域も課題は共通しており、その課題に対してのいろいろな取り組みが聞けた。奈良のお話しは興味深く、来年の報告が楽しみ。久しぶりの参加。しっかり学び、交流したい。(匿名 兵庫)

第6分科会

手話言語条例への各地の取り組みが分かって勉強になった。制定後も、取り組んでいく必要があることも分かり、自分の地域に持ち帰りたいと思う。(渡邊さん 奈良)

約100人の皆さんから、インタビューにご協力いただきました。ありがとうございました。紙面のスペースの都合上、すべてをご紹介できず、申し訳ありません。実行委員会への励まし、ありがとうございました。おしかりは共有して今後の活動に活かし、次年度の静岡にもお伝えしたいと思います。

